

## 第14回エネルギー政策検討会 会議議事録（要約）

### 1 会議の概要

- (1) 日時 平成14年3月11日（月）午前10時30分～午前11時45分
- (2) 場所 県庁正庁
- (3) 次第
  - ア 開会
  - イ あいさつ
  - ウ 議事 審議事項 「地域振興について」～統計データから見た電源立地地域～
  - エ その他
  - オ 閉会

### 2 議事内容（要約）

#### 【司会者】

- 本日の検討会は、「地域振興について」をテーマとし、具体的には双葉郡をケース・スタディーに、発電所が立地したことによる効果あるいは課題等について、各種データから検証していきたい。

#### 【事務局】

（資料に基づき説明）

#### 【検討会メンバー】

- 資料によれば、双葉郡の人口、産業構造、財政状況、社会資本の整備状況など、ほとんどの項目で全県の町村の計を上回っている。これは原子力発電所立地の効果が現れていると言える。
- 今後どのような動きになるのか、例えば5年後どうなるのかということが大きな検討課題である。
- 特に、財政構造等で、双葉町が他の4町と変わった数値が出ており、分析を必要とする。

#### 【検討会メンバー】

- 指数化、グラフ化されているが、発電所の立地がどのように寄与しているか、寄与率も確認したい。

#### 【検討会メンバー】

- 商業部門、例えば、商業事業者数、商品販売額などの統計資料も必要ではないか。立地前と立地後の推移の検証が必要。

#### 【事務局】

- 商業関係のデータは、今後、整理していかなければならないと考えている。
- 今回の資料は、傾向、推移を見ることを主眼としたものである。今後、実際の数値についても精査したい。

#### 【検討会メンバー】

- この地域は建設業就業者の割合が高く、それが発電所の開発が入り急速に伸びたが、市町村内総生産の推移の指数では低い、ということは零細企業が多かった印象を受ける。

- 今後、インフラ整備の満足度調査や、類似町村との比較を行ってはどうか。

【検討会メンバー】

- 統計指標の調査年次が資料により異なる場合がある。今後、検討していく上で統一させた方が良いのではないか。
- 人口、従業地就業者、公債費、市町村内総生産などの複数のデータ、指標において、双葉町の動きがかなり急激である。この辺をどう読みとるかが、今後の課題である。

【検討会メンバー】

- 財政の中に占めるインフラ整備のシェアがどうなっているのか。また、大熊町、双葉町が図抜けた動きをしている。特に大熊町の数値が特徴的であると思う。この要因の分析が必要である。

【検討会メンバー】

- 資料18ページ「人口1人当たりの歳出額」は、富岡町が県平均より低い。交付金や税金が増えているのに、県平均より下がっている。富岡町の人口が伸びたことに起因するのか。
- 人口を定着させ増加させるというのは、地域振興の大きな眼目である。しかし、仮に人口が伸びても地域振興につながらないとすると、何か次の財源が欲しいという構図が出てくるのかどうか、事務局で分析しているのか。

【事務局】

- 富岡町は、第3次産業の割合がもともと他町より高く、特に、近年は道路整備も進み、人が流入する傾向にあるのは確かではないか。富岡町は人口1万6千人位の大きな町であり、単純に歳出額を1人当たりで割るとこういう数値になる。
- 管内町村の中で、人がどのように流入・流出したのか、今後、検証が必要だが、全体的に言えるのは富岡町は人口の流入が多かったものと思われる。

【検討会メンバー】

- 第1次産業である農林水産業において、従業者数も生産所得も落ち込んでいて、今後の振興に向けて、しっかり考えていく必要があると受け止めた。
- 原子力等の発電所が立地したことにより、関連製造業の立地があったのか、裾野の広がりがどうであったのか等も課題である。

【事務局】

- どこまでが関連と言えるのか難しい面もある。厳密な数値、寄与度等、難しいが努力したい。発電所の立地以降、どういう業種が立地したかという傾向は今後調査したい。

【検討会メンバー】

- 持ち家の比率や公営住宅あるいは社宅等、住宅の持ち方も調べる必要があるのではないか。

【事務局】

- 公営住宅の整備や持ち家率について、全国的な統計は出ているが、地域ごとに出ているかどうかを含め、今後調査したい。

【検討会メンバー】

- 今後、県の立場でこの地域の振興をどう考えていくかということで、1つには立地5町とは言っても5町の中でもいろいろ差があるのではと論点が出された。双葉町とか大熊町とかその辺をどの様に考えていくのか議論も出ている。

【検討会メンバー】

- 上水道の普及率について、資料では昭和50年からの統計であるが、それによると、この地域は元々水準が高かった。発電所の立地前後の統計資料があれば、普及率の推移と発電所立地との関係について分析できるのではないか。
- 医療施設や病床数の数値では、双葉地域の医療水準は町村平均より高いが、実際にはこの数値だけでは表せない面があるのではないか。例えば、救急医療体制は来年1月によりやく2次救急医療体制となる予定であり、医療水準そのものがどうなのかなという感じがする。
- 福祉についても、地域振興と関係がある。

【検討会メンバー】

- 就業人口は都市部と類似した構成であり、第3次産業のウェイトが高い。そのウェイトの中味はおそらく定期点検とか、様々な流動人口に対する旅館業やアパートとか、不動産業のウェイトが高い面もあるのではないか。
- 地域振興をテーマとした分析を行う場合、発電所の関連産業の影響を受けやすい地域でもあり、そうした面の分析が必要。

【事務局】

- 第3次産業の中で、特にどういう業種がウェイトを占めているのかについて、他の町村と比較しながら分析していきたい。

【検討会メンバー】

- 原子力発電所の工事費について、建設時期が異なるが、同じ出力（110万kW）の福島第一6号機は約1,754億円、一方、福島第二の4号機は約2,914億円となっている。
- 工事の経済波及効果等について、過去の例から、ケース・スタディーが可能かどうか。

【事務局】

- 確かに時期により、原子力発電所の工事費に違いがあるが、資材の高騰等があったものと思われる。
- 今、原子力発電所の場合、通説では1基約3,000億円の工事費と言われている。それがどのような波及効果があるかというデータについては、データの有無等調査し、公表等が可能であれば提示したい。

【検討会メンバー】

- 1つは発電所があって交流人口がどの様に推移したのか、三法交付金等でいろいろな施設が出来ているが、他県や他地域との交流人口がどの様に推移してきているのか。
- 2つ目には、数値化されたデータが示されているが、地域振興と言った場合、幅広く言えば定性的なものが出てくるのではないか。難しいと思うが、その観点からも見ていく必要があるのではないか。

【事務局】

- 究極的には、地域振興とは何かということに関わってくる。我々としては、可能な限り様々なデータを調査し、あるいはアンケートや意識調査等の過去の調査事例等により、住民の満足度など、数値に出ない部分についても、可能な限り調査していきたい。

【検討会メンバー】

- 双葉地域は努力はされているが、原子力等の発電施設にどれだけ依存しているか。あ

るいは将来、依存の度合いがどのようになっていくのかを少し見極めていく必要があるのではないか。統計資料だけでは難しいと思うが、もう一步踏み込む必要がある。

- 今後、更なる増設が電源地域振興のために必要なのか、あるいは将来、税収はどのようになるのか、償却資産の制度がどうあるべきか、分析、推測が出来ないものか。税法上の問題等で難しい部分があるのかもしれないが、そのような努力が出来ないものか。

#### 【事務局】

- 固定資産税については、土地家屋については3年に1回評価替えと言う方法でほとんど変わらない。一方で、発電所については償却資産と言うことで15年で約1割に落ちてしまう傾向がある。
- これについて今後どうなるのか、今後追加投資がないという前提に立てば、ある程度シミュレーションは可能かもしれない。しかしながら、税法上の守秘義務の壁があり、一納税者の税額の公表は困難である。

#### 【検討会メンバー】

- データによると、電力関係に非常に依存した地域であることを改めて認識した。電力会社が風邪を引けばこの地域は大変になってしまうことが良く分かる。
- 例えば、産業構造、特に、建設業の比率が高いとか、あるいは従業員関係1万人以上が働いていること等、また、税収、特に立地等に伴って、過激に財政力指数が上がるとともに、急激に下がって行くとか、大きな変化の中にこの地域があったと感じている。
- 今後、このような問題、地域振興を考える時、このような急激な変化をどのように捉えていくべきかが課題である。

#### 【検討会メンバー】

- 人口等、その他の基本的なデータや数値を見ると、まさに企業城下町だと感じた。
- 企業城下町には、これまで炭坑の町が15万から2万の町になったとか、あるいは製鉄所が無くなって産業構造の変化で動いている町もある。そうした企業城下町が将来推移、どうなっていくのか、永続していくのかどうかと言うことなどを、今後、いま指摘のあった資料を集めながら考えていく必要がある。
- この資料全体を見ると、双葉町に少々異なる傾向が出ている。これをどう捉えるのか。今後、双葉町と同様に他町も同じような推移で動くのか。双葉町だけが違うのか、全体がその様な傾向で動いていくのかどうか等、将来の傾向や推移、予測を見る必要がある。
- 地域振興については、県も一緒に考えて行くが、その中で高速体系、常磐自動車道など、どのようなインフラが整備されて、どのような地域振興を図っていくか、今後の問題だが、今日、出された意見、新たにデータを集めながら検討をしていきたい。

以 上